

**留学先国名** : スウェーデン

**留学先学校名** : イェーテボリ大学

**留学期間** : 平成 27 年 8 月 18 日 ~ 平成 27 年 12 月 14 日

私は、数週間の短期での留学は何度か経験してきましたが、4 ヶ月という長期での留学は初めての経験でした。本当にいい経験をさせていただいたと思います。以下、その報告をさせていただきます。

私が留学した街「Göteborg(以下、スウェーデン語読みでヨーテボリ)」は、スウェーデン大国の最盛期に、国王グスタフ I 世アドルフが建設し、大航海時代には貿易の拠点となり、北海への出入り口として栄えました。現在も、ヴェストラ・イエータント県に属するスウェーデンの港湾都市で、県庁所在地であります。人口は約 52 万人。スウェーデンではストックホルムに次ぐ、北欧でも 5 番目に大きな都市です。街の名前は「ゴート族の都市」を意味しています。ストックホルムから飛行機で 1 時間程、鉄道では 3 時間程のところに位置し、スウェーデンを代表する自動車メーカー「ボルボ」の本社があります。ノバスもタクシーもボルボ社製が多く、BMW やベンツが大衆車として砂探まみれになりながらあちこちで走っているのを見ると、ヨーロッパに来たのだと実感させられました。

市内の交通機関は路面電車とバスです。特に路面電車は滞在期間中、寮と大学の校舎の往復のため定期を購入して乗っていたため、愛着あるものとなりました。時折聞こえて来る教会の鐘の音は、車窓から眺めるスウェーデンの秋景色をより一層美しく感じさせてくれました。ただ、無賃乗車の人の多いのには驚かされました。

ヨーテボリの旧市街地はハーガ地区と呼ばれ、石畳が敷かれており、ヨーロッパの中世の街並みを楽しむことができます。ただし、営業時間は 11 時位にしか始まらず、夕方 5 時には閉まってしまう店も多いです。土日は殆どの店が閉まっているのも、ヨーロッパらしいと思いました。

ヨーテボリは大学都市でもあり、ヨーテボリ大学のほか、チェマース工科大学があり、それらのキャンパスは、街のあちこちに分散しておかれています。図書館もいくつかあり、私は煉瓦造りの中央図書館によく通いました。

滞在の最初は、慣れない異文化での暮らしで気疲れがしましたし、冬が深まると日照時間が少なくなり、日の短さも日本の感覚とは大きく異なり、朝は 8 時でも暗く、逆に午後 3 時には夜の帳がおり始めます。緯度の高い欧州に来ると気分が落ち込むと言われますが、それを実地に体験したと言えます。

今回の受講した授業についてですが、9 月から始まった国際法の授業は大阪大学で受講していた国際法とヨーテボリ大学での国際法の相違点を知りたくて取ってみました。はじめは、海洋法で南シナ海の問題を取り上げ、いくつかのグループに分かれ、グループ内で討論し、一つのグループとしての意見をまとめ、発表するという形式の授業でした。そのグループワークではメンバーの自己主張の強さに初めは圧倒されましたが、徐々に私も自分の意見を主張できるようになってきたと感じています。

国際法の授業を受講している学生たちはみな政治的意識が高く、デモに対しても主体的で、実際に彼ら

彼女らはデモに参加することも多くあるようで、日本で日本の大学生がデモに参加するよりも積極的なのではないかと思われます。9月から10月にかけては「難民受け入れに関するデモ」が行われていました。わたしも国際法を受講したことによって、いろいろなイベントに参加する機会を得ることができ、また実際に「西サハラに関する講演会」など、いろいろな講演会に参加してまいりました。

10月に入ってからは、国際紛争関連の問題を取り扱った授業を受けました。いくつかのピースフォーラムへも参加し、学生団体との交流を深めることができました。10月23日～25日には合宿形式のフォーラムに参加し、地元の小学校で宿泊し、そこでアフリカの貧困問題やシリアなどの国際紛争の問題についても話し合いを持つ機会に恵まれました。大学の授業ではできない交流ができた点はとても新鮮でもありました。また、この合宿形式のフォーラムに参加したことを契機に新しい友人もでき、スウェーデンでの学生生活も幅が広がったように思われました。

11月には、模擬国連に参加し、スウェーデン語の学習も始めました。大学の講義は英語で行われるのですが、日常生活ではスウェーデン語で使っています。実際には、スウェーデン語のほんの基礎を学んだにすぎないのですが、日常の生活には役に立ったと思います。それにスウェーデン語の授業は語学体系を学ぶだけでなく、参加している各国の学生の文化的な交流もあり、それが私にとっては、とても楽しく有意義な時間となり、ここでも各国の友人が増えました。

12月には、その友人らと列車でストックホルムまで行き、そこからデンマークの首都コペンハーゲンに出かけ、難民の実態を視察してきました。ちょうど11月にパリでテロ事件があった後で、セキュリティチェックが厳しくなったようですが、それにもかかわらず、EUにおける城内移動の自由であったと感じました。

留学中は、さまざまな国から来た、さまざまな年齢の人達と知り合え、さまざまな交流を持つことができました。特に帰国前には、留学先で知り合った友人たちと一緒にクリスマスマーケットに行って買い物をして、自分たちでお国の料理をし、それを持ち寄って一緒にフェアウェルパーティをしたことが思い出になりました。最後に、私をヨーテボリに送りだしていただいた、大阪府国際化戦略実行委員会と大阪大学に感謝し、今後も今回の経験を活かし、いろいろなことを学んでいきたいと思っています。

以上